

《告知板》

個人伝道一日セミナー開催のお知らせ

開催日時:2018年5月15日(火)10時~17時

開催会場:尼崎キリスト教会 2階礼拝堂

対象者:牧師または牧師と信徒

講師:山中知義牧師(京都インターナショナル教会主任牧師/EE Japan 代表)

費用:無料、弁当代500円(希望者)

目的:今回のセミナーは、個人伝道方策の一つである EE (Evangelism Explosion/爆発伝道)を紹介するものです。これは、教会が主体的に取り組むものですので、信徒の方は必ず牧師と一緒にご参加下さい。

EE (Evangelism Explosion/爆発伝道)の紹介

歴史:1960年に D.ジェームス・ケネディー博士によって、米国フロリダ州で始まった超教派的伝道ミニストリーで、地域教会主体の働き。

特徴:信徒を中心とした友情伝道が主体で、人間関係のネットワークの中で、個人伝道を中心としてなされています。

方法:牧師と信徒が、他者を訓練できるように、13週の学びを行い、期間中に何度も実地訓練(OJT)を行い個人伝道の技術を身につけます。(牧師対象の5日間のリーダー・シップクリニックも可)

受講の感想:私たちの教会では、CCC(キャンパス・クルセード・フォークライスト)の「KGP」、吹田聖書福音教会の「聖書とは」を個人伝道ツールとして用いてきました。これらは冊子というツールを使うので、多くの人々が取り組みやすいという利点があります。しかし、ツールに縛られて相手に対して強調点を調整するという自由度に欠けることがあります。今回の取り組みは、今までのツール伝道が土台となり、相手の霊的状态を診断して、それに合わせた福音伝達が臨機応変にできることは、魂の刈り取りのできる信徒を増やしていくために有効なアプローチだと考えています。(I 教会牧師)

次のような思いをもたれている牧師のみなさんに朗報なセミナーです。

- ・牧師自身の個人伝道の技術を身につけたい、今以上に強力なものにしたい。
- ・牧師だけの個人伝道でなく、信徒の方々が個人伝道ができるようになってほしい。
- ・教会が魂の救いのために意識を向けるようになって欲しい。
- ・教会に来られた新来会者の方に、個人的にしっかりと福音を伝え、信仰決心に導きたい。

☆詳細を希望される方は <https://www.facebook.com/EvangelismJapan/>

☆申し込み方法:各教会の牧師が取り纏めて頂き、伝道委員会委員長田畑雅紀へ

メール: tabaizuml@cotton.ocn.ne.jp をお願いいたします。5月5日締め切り☆

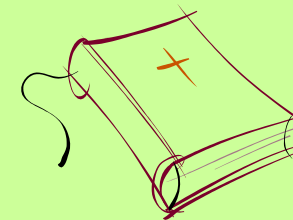
編集後記:皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行:日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋3丁目7-15 TEL:072-762-5731

発行者:田畑雅紀(伝道委員長) 編集者:河野和雄(広報担当)

MB 伝道ニュース



開拓伝道のビジョンを語る【11】



中島若樹師:伝道委員会
(能勢川キリスト教会)

神様からの召しを受けた献身者が、どの地域に住んでどのような形で福音を伝えるか、また生計の立て方も含めて考えて、すべて同時に行っていく。教会や教団が開拓伝道を支援するとしても、限定的であって、やはり開拓に携わる献身者にすべてがかかってくる。これが過去に私が持っていた開拓伝道のイメージですが、様々な機会を通してその理解が少しずつ変わってきました。

1. 開拓の始まり

災害がきっかけに始まる教会があります。牧師への依存を避けるため、献身者が働きながら始まる教会があります。新しい教会が生まれる背後には、母教会や宣教団体や教団とのつながりがあります。宣教師も個人が単独で宣教地に向かうのではなく、ほとんどの場合、母教会や教団から遣わされて働きが始まります。御言葉は教会を建てるのはイエス様であり、私たちの主イエス様の父なる神様が、すべての霊的な祝福で私たちを祝福しようと定めたと語ります(マタイ 16:18、エペソ 1:3~6)。開拓伝道の始まりは神様の恵みによる救いのご計画によるもので、献身者が一人でするイメージとかけ離れています。

昨年秋に千葉県熊谷市で開かれた CPI 全国カンファレンス(10/25~27)MB 伝道委員会の一員として参加しました。CPI カンファレンスは宣教師数家族によって始まり、日本の開拓伝道者のためのセミナーとして、国内外から数百名の奉仕者を含む参加者があり、日本への宣教師にとって励ましの場です。日本に福音がさらに伝えられ教会が新しく立てられることを目的としたこのカンファレンスは、英語と日本語で行われました。全体集会と分科会で英語の割合が多いですが通訳がありました。特に印象に残ったのは、教会開拓のためのネットワーキングという考え方です。教会開拓には孤立するのではなく、人に一方的に依存



CPI 全国カンファレンス大会
(H29/10/25~27)



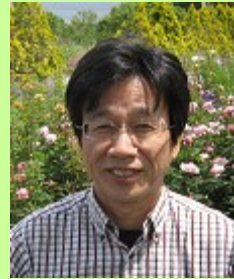
するのでもなく、相互依存の教会開拓者のつながり、仲間のグループでの交わりが求められるということです。そのために同じ環境にある献身者たちは、定期的に交わりを持ち、働き、家族、罪を告白するつながりを持つのです。CPI セミナーは開拓伝道への召しのある方、すでに開拓をされている方、教会開拓のネットワークを願う人たちに多くの良い情報を提供しています。

2. 開拓伝道で大切に思われること

やや本題からそれますが子育ての経験から開拓伝道について考えてみました。私たち夫婦は、これまで子育てを通して数えきれないほどの失敗や問題に直面し、また恵みを受けてきました。本当は子供に注意している私が注意されるべきであり、私自身の子育ての希望を妻に押し付けて悩ませ、私の頑張りでしょうとしてできずに、家族を怒らせもしました。プライドや自分を正当化する性質に直面させられます。子育ては学ぶ機会です。そして、どんな家庭であっても一人では子を育てられません。神様の恵みと助けと共に、悩みや課題や喜びを分かち合える仲間たち、主にある兄弟姉妹、教師の存在がいるのです。

開拓伝道は、パイオニア的な働きです。そこには福音を伝える喜びと共に、多くの課題や失敗があるに違いありません。世の風当たりが予想されますし、新しいことを始める難しさや、見通しできないところを通るでしょう。さらに開拓伝道に関わる献身者が自らの弱さや罪深さや未熟さに直面するでしょう。その渦中において、生きておられる神様の語りかけと導き、また、主にある兄弟姉妹の仲間たちの祈りや励ましが大きな意味を持つでしょう。

「家の教会」シリーズ#5



北嶋和之師
審議委員会議長
(総持寺キリスト教会)

伝道委員長の田畑先生がこのシリーズの第一回目に『「家の教会」とは、魂の救いと弟子作りによる初代教会の回復を目指す実践の場です。そこでは、核となる信徒夫妻が牧者(リーダー)となり、家を開放し、食事を共にし、生活のレベルでの分かれ合いと執りなしの祈りを通して、宣教と交わりがなされます。』と紹介してくださいました。

皆さん家の教会がどのようなものが覚えておられますか？

私は、3年前に家の教会セミナーを受けてきました。昨年秋2名の役員の方が、家の教会信徒セミナーを大阪の同盟基督教団松原聖書教会に受講しました。

教会の伝道は、トラクトを配布し、コンサートや講演会などの集会にできるだけ多く人々を集まれば、良かったと満足する。新しい方が来られても個人的な関わりを持つことを思わず、関心のある方がおられれば牧師先生におまかせする。このような伝道の現状のように思います。聖書は、牧師と信徒の方々とのチームワーク、信徒による伝道牧会を言っていると思います。

ここ数年、総持寺キリスト教会では、自主活動を行っています。懐かしの歌声喫茶、朝の賛美の集い、ゴスペルなど自主活動があります。そこには、未信者の方々も参加されています。そのような人との繋がりができてきています。そして、未信者の方で聖書を学びたいという方が、おられてたら牧師ではなく、ケースバイケースですが信徒の方にさせていただいたりしています。また、高齢者など礼拝に来れない方々への訪問も信徒の方々のサポートチームがしてくださっています。信徒の自発性が生まれてきています。

さらに家の教会の方策によって、信徒による伝道牧会がさらに豊かになっていくのではないかと思います。教会でも学んでこうとしています。私なりに家の教会の良いと思うところを書いて終わりたいと思います。

① 家の教会は、「開拓教会」である。と「信徒による教会形成家の教会」の著者チェ・ヨンギ先生は定義されています。

家の教会では「牧場」(家での小グループ)で、開拓伝道が行われます。

牧場のメンバーが一人の方でもその牧場に招こうと、人々を誘い、そのために祈り、また牧場に来てくださった方がいれば、駆け寄って歓迎し、また奉仕を喜んで分担していく。このことによって牧場のメンバー全員がとてもやりがいと喜びを感じると思います。私も牧師になり、はじめて求道者の方を導き、洗礼を授けることができたときの喜びを忘れることができません。一回一回の洗礼に神様の不思議な導きを体験し、喜びが与えられています。信徒の方もそのような喜び、やりがいを体験できることは、素晴らしいことです。

② その伝道方法は、家での神の家族、愛の共同体を未信者の方に経験していただくことである。

「伝道は大切でしたいけれども、伝道は難しく私にはできません。」というのが正直な気持ちかもしれません。「聖書をうまく教えて導けない」ということが大きな理由のひとつかもしれません。牧場の伝道方法は、シンプルです。牧場では、一緒に食事をし、生活を分かち合うということです。神の家族、愛の共同体を未信者の方に体験していただくということです。このことをきっかけに日曜日の礼拝や聖書の学びにつながっていきます。この方法なら、実践できそうです。

信徒の方々が、救霊のために用いられる喜び。人が主に交えられていく姿を目の前でみていく喜び。神の家族として、人生の様々なことを分かち合っ、助け合っていくところからくる喜びと祝福。これらを体験したいと願っています。



伝道支援キャラバン参加募集

中田明義兄：伝道委員会

私たちにとって、開拓伝道所の有無にかかわらず、開拓伝道は途切れず継続して行わなければなりません。この伝道支援キャラバンは教団内兄弟姉妹の相互支援の働きの一つです。伝道委員会は主催教会の伝道プログラムに他教会の兄弟姉妹が参加協力できるよう支援いたします。各教会での企画にご利用下さい。

委員会では下記の二点について募集いたします。

- ① 教団内兄弟姉妹の人的支援を希望する教会。
- ② 応募教会の伝道活動に参加したい兄弟姉妹。
尚、教団から交通費の一部が援助されます。

応募先 伝道委員会伝道支援キャラバン担当 中田明義(武庫川キリスト教会)

連絡方法 携帯 090-9880-7809 fax 06-6417-4938 email n_akiyoshi@hotmail.com

